

琵琶湖における健全な生態系の保全と回復

前田 雅彦(社会人コース)

1. はじめに

環境問題の解決の大きな柱は、世界中の人々が、意識してその行動を考えることである。現在の便利な生活を守りながら、環境問題を解決することは、一見相互に矛盾するように見える。そこに環境問題の難しさがある。アメリカ合衆国の京都議定書からの離脱もこれを表している。

2. 毎日新聞の環境キャンペーン

毎日新聞は、環境問題を取り上げているもっとも熱心な日刊紙であると思っている。この1年半の毎日新聞を切り抜いてきた資料を基に、新聞の環境問題への役割を検証してみた。

3. 琵琶湖における生態系の現状

琵琶湖およびその周辺においては、希少動植物の種類が増加している。里山の荒廃、琵琶湖総合開発などによるヨシ原の減少、人口湖岸、人工河川の増加、水田の排水路の変更、内湖の減少、人口の増加、人々の生活環境の変化、農業のあり方の変化、ゴルフ場の増加などが原因と考えられる。

4. 琵琶湖における生態系の保全と回復への取り組み

琵琶湖においては様々な生態系に対する取組が行われている。その取り組みを調査し、その実態を出来るだけ現地で確認し学ぶという作業をしてきたのでその報告をする。

- ①森林づくりへの取り組み
- ②希少種対策
- ③外来種対策
 - (1)魚のゆりかご水田プロジェクト
 - (2)高島市うおじまプロジェクト
- ④有害鳥獣対策
- ⑤ヨシ群落の保全
- ⑥水草対策
- ⑦水辺エコトーンマスタープラン
- ⑧早崎内湖干拓地での内湖生態機能再生に関する調査

5. まとめ

環境先進県といわれる滋賀県は環境に関する条例制定が進んでおり、琵琶湖の水質改善などに大きな成果をあげている。滋賀県では琵琶湖一斉清掃などにより、他府県に比べると人々の環境に対する関心は高いといえる。今回、琵琶湖周辺を調査したが、各地で生態系を守るための取組がいろいろ行われているのを目のあたりにして、琵琶湖を守る大切さを実感した。しかし環境問題は行政や一部の人々が取り組んで成果の出る問題ではなく、全住民がその大切さを理解し取り組むことが不可欠である。

多くの人々は生態系がどのように変化し、それが多くの生物、或いは人々の生活に大きな影響を与えているかをほとんど意識していない。健全な生態系を保全し回復されることが、地球温暖化の防止に役立つことを、もっと知らせるべきである。